

日本応用心理学会 認定「応用心理士」

資格申請受付中

本学会では、学会員で業績のある人に対し、一定の手続きを経て標記の認定「応用心理士」の資格認定証を交付することにいたしました。この資格は、個人や集団の心理学的指導に努力している人びとの社会的地位を承認するための一助として考えられたものです。

認定資格の基礎的条件として、本学会に入会後満2年を経過し、現在会員であることが必要です。さらに、応用心理学の専門職としての資質があると認められた人に認定されます。(資格要件の詳細については、「資格申請の手引き」をご参照ください。)



認定「応用心理士」の資格を得ようとする人は、応用心理士事務局へ、資格申請書類を請求してください。この際、500円の郵便為替または同額の切手を同封してください。折り返し「申請の手引き」と「申

請書類一式」をお送りします。

すでに申請書類等をお持ちの方は、それをご使用ください。

受取られたら、申請書類に所用事項を記入(写真添付)し事務局へ送付してください。資格認定に関する費用として、審査料10,000円と、合格した人は認定料30,000円が必要です。

認定「応用心理士」の認定証は、日本応用心理学会の会員である間は有効で、履歴書等にその所持を記載することができます。

早めにご申請の手続きをお取りください。

※申請書類請求先 (電話によるお問合わせには)
応じられません。

〒161 東京都新宿区下落合 1-7-7 富士短期大学内
応用心理士事務局

認定「応用心理士」認定者 (1995年9月～1996年8月)

認定番号	氏 名	認定番号	氏 名	認定番号	氏 名	認定番号	氏 名
S-1	森 重 敏	H-7	高 嶋 正 士	H-24	藤 澤 明	H-41	草 野 美根子
S-2	田 中 熊次郎	8	浮 谷 秀 一	25	金 丸 徳 久	42	松 本 洸
S-3	塚 田 毅	9	小 宮 敏 克	26	岸 本 英 男	43	片 山 義 弘
S-4	黒 田 正 典	10	廣 島 克 佳	27	大 塚 一 郎	44	小 野 紘 昭
S-5	松 村 康 平	11	久保田 小枝子	28	坂 口 哲 司	45	鈴 木 秀 明
S-6	永 澤 幸 七	12	高 石 光 一	29	加 古 明 子	46	三 宅 洋 一
S-7	板 倉 善 高	13	中 淑 子	30	中 尾 勢津夫	47	山 本 勝 則
S-8	斎 藤 幸一郎	14	大 村 政 男	31	横 田 愛 子	48	下 司 昌 一
S-9	奥 沢 良 雄	15	鈴 木 啓 之	32	川 村 玲 子	49	長谷川 孫一郎
S-10	肥田野 直	16	中 原 弘 之	33	洞 内 祥 次	50	大 塚 博 保
H-1	駒 崎 勉	17	石 川 雄 三	34	安 藤 詳 子	51	今 井 省 吾
1	岡 村 一 成	18	松 尾 典 子	35	中 尾 久 子	52	本 田 幸 八
2	田之内 厚 三	19	小 杉 常 雄	36	安 部 保 子	53	今 井 欣 悦
3	渡 部 章	20	小 尾 隆 一	37	和 田 全 弘	54	佐 藤 怜 怜
4	藤 田 主 一	21	遠 藤 定 雄	38	高 橋 哲 也	55	齋 藤 勇
5	長 澤 哲 史	22	箭 内 敏 夫	39	中 村 昭 之	(以上 66名)	
6	池 田 恵利子	23	沢 宮 容 子	40	恩 田 彰		

1. 平成7年度総会

恒例により、大会委員長（高嶋正士教授）を議長として選出し、以下の報告および審議・決定がなされた。

＜報告＞

(1) 事業報告

- 1) 会員異動状況について
- 2) 会費納入状況について
- 3) 公開シンポジウム開催について
- 4) 機関誌 No. 20 の発行について
- 5) 認定「応用心理士」事務局報告

(2) 日本心理学諸学会間連絡会報告

(3) 第61回大会会計報告

開催校、城西大学より報告された。

＜審議＞

(1) 平成6年度決算について

監査委員の馬場房子、田之内厚三両氏の監査を受けた決算書が事務局より提出され、承認された。

(2) 平成7年度予算案について

常任運営委員会、運営委員会において承認された後、総会で承認された。

(3) 名誉会員の推薦について

常任運営委員会において推薦がなされ、その後、運営委員会ならびに総会において、次の先生の名誉会員推挙が満場一致で決定された。

宮本 昇先生

大村政男先生

恩田 彰先生

高嶋正士先生

(4) 平成8年度（第63回）大会開催校は中京大学に決定（大会委員長 神作博教授）

(5) 第62回大会開催校・第63回大会開催校挨拶。

2. 一般活動報告・事務諸報告

(1) 第62回大会（平成7年9月8日・9日）共立女子大学において開催。盛会のうちに終了。

(2) 『応用心理学研究』第20号の印刷ができ、会員および関係機関に送付した。

(3) 平成7年度の公開シンポジウムの開催（平成7年11月18日、於：日本女子大学）。テーマ「心のコン

トロールをめぐる諸問題」、企画・司会 恩田彰（東洋大学）、話題提供 高橋哲也（文京区教育委員会嘱託）、柴田出（柴田クリニック院長）、池本薫（産経新聞社論説委員）、岡野守也（サングラハ心理学研究所主幹）

(4) 平成9年度（第64回大会）開催校は駒澤大学に決定（大会委員長 中村昭之教授）

3. 第62回大会発表状況

個人発表	104件
パネル・ディスカッション	3件
公開シンポジウム	1件
公開講演	1件

4. 会員異動

新入会員 別掲

退会者 別掲

5. 寄贈文献 別掲

平成 6 年度決算報告

収 入			支 出		
項 目	実 行 額	予 算 額	項 目	実 行 額	予 算 額
繰 越 金	▲91,040	▲91,040	第61回大会補助費	500,000	500,000
会 費	<u>4,546,000</u>	<u>4,521,500</u>	シンポジウム費	205,150	200,000
過 年 度 分	342,000	211,500	印 刷 費	<u>1,741,327</u>	<u>1,800,000</u>
	(4,500* 76)	(4,500* 47)	機 関 誌	1,731,327	1,600,000
本 年 度 分	4,194,000	4,260,000	そ の 他	10,000	200,000
	(6,000*699)	(6,000*710)	通 信 費	<u>184,023</u>	<u>240,000</u>
賛 助 会 費	10,000	50,000	機 関 誌	89,467	80,000
雑 収 入	105,169	150,000	会 員 名 簿	0	0
			そ の 他	94,556	160,000
			機関誌編集費	85,418	140,000
			名簿作成積立金*	300,000	300,000
			ミニ通信費	72,000	80,000
			さいころじすと費	43,143	80,000
			諸学会連絡会費	7,000	7,000
			交 通 費	105,000	200,000
			事 務 局 費	245,904	300,000
			アルバイト費	861,400	680,000
			予 備 費	0	53,460
			次年度繰越金	209,764	0
合 計	4,560,129	4,580,460	合 計	4,560,129	4,580,460

※名簿作成積立金は平成 4 年度分の40万と 5 年度分の30万及び 6 年度分の30万を合計して100万となる。

以上の通り相違ありません。

平成 7 年 8 月 4 日

監査委員 田之内 厚 三 ㊞

監査委員 馬 場 房 子 ㊞

平成 7 年度予算案

収 入		支 出	
項 目	予 算 額	項 目	予 算 額
繰 越 金	209,764	第62回大会補助費	500,000
会 費	<u>4,430,000</u>	シンポジウム費	200,000
過 年 度 分	180,000	印 刷 費	<u>1,700,000</u>
	(6,000* 30)	機 関 誌	1,700,000
		そ の 他	0
本 年 度 分	4,200,000	通 信 費	<u>190,000</u>
	(6,000* 700)	機 関 誌	90,000
賛 助 会 費	50,000	そ の 他	100,000
「応用心理士」関係	<u>2,650,000</u>	機関誌編集費	100,000
審 査 料	630,000	名簿作成積立金*	300,000
	(10,000* 63)	ミ ニ 通 信 費	80,000
認 定 料	1,800,000	さいころじすと費	100,000
	(30,000* 60)	諸学会間連絡会費	7,000
「資格申請の手引		交 通 費	200,000
き」広告掲載料	220,000	事 務 局 費	250,000
		アルバイト費	864,000
雑 収 入	100,000	「応用心理士」関係	2,650,000
		予 備 費	248,764
合 計	7,389,764	合 計	7,389,764

日本応用心理学会第60回大会決算

1993年 9 月11・12日

於：鹿児島大学教育学部

1 収入

適 要	金 額	備 考
大会参加費	1,120,500	
〔内訳〕 予約分 5,000×156	780,000	名誉会員, 賛助会員, 講師, 通訳 は除く
当日分		
正 会 員 5,550× 33	181,500	
臨時会員 5,500× 16	88,000	
学生会員 1,000× 5	5,000	
後援団体 1,500× 44	66,000	
論文集代金	1,228,500	
〔内訳〕 予約分		
個人 5,000×202	1,010,000	
機関 5,500× 0	0	
当日分		
個人 5,500× 31	170,500	
機関 6,000× 1	6,000	
後日分		
個人 5,500× 2	11,000	
機関 6,000× 6	30,000	
写真掲載料 500× 2	1,000	
懇親会費	411,000	
〔内訳〕 予約分 5,000× 51	255,000	
当日分 6,000× 26	156,000	
賛 助 金 1 口 1 万円	370,000	
広告料・展示料	1,375,000	
大会補助費 (学会事務局より)	500,000	
そ の 他 (寄付金)	10,000	
合 計	5,015,000	

2 支出

適 要	金 額	備 考
印刷費	1,928,261	
〔内訳〕 大会案内・封筒等	50,900	
原稿用紙・プログラム	736,000	
発表論文作成要項	14,000	
ポ ス タ ー	30,000	
領収証・参加者章	35,000	
スタッフ名札（リボン等）	30,641	
発表論文集	992,000	
そ の 他（コピー代等）	39,720	
通信費	482,431	
〔内訳〕 大会案内郵送費	67,824	
プログラム等郵送費	250,380	
ポスター等郵送費	16,450	
発表論文集郵送費	95,760	
そ の 他（切手・TEL・FAX等）	52,017	パソコン通信・葉書含む
交通費	573,660	
〔内訳〕 タクシー代	63,660	
東京出張費（大会委員長）	390,000	
東京出張費（事務局長）	120,000	
人 件 費	577,200	学生弁当代を含む
文具・雑貨	89,003	
懇 親 会 費	511,662	
会場費・設営費・備品レンタル料	171,284	看板代を含む
茶菓子代（喫煙・休憩室用）	33,512	
講演費・花代・シンポジウム費	287,506	
準備委員会・事務局会合費	193,432	
大会運営費	167,049	
合 計	5,015,000	

☆本来20号に掲載すべきを事務局手落ちにより本号に掲載いたします。（20号には61回大会決算が掲載）

日本応用心理学会常任運営委員会議事録

1995年度第3回(1995年7月)

日 時：1995年7月21日(金) 18:00~20:00

場 所：日本女子大学 目白キャンパス 第3会議室

出席者：高嶋、大久保、大塚、大村、恩田、垣本、
神作、中村、長谷川、林、正田、村井、齊藤
事務局(高橋、久東、渡辺、荘村)

報告事項：

1. 第62回大会準備状況(高嶋大会準備委員長)
プログラムを7月27日に発送する予定である。
発表が110件、参加申し込みが167名、懇親会申し込みが43名である。
また、公開シンポジウム1件、一般シンポジウム3件を予定している。
新聞社に連絡し、公開シンポジウムの案内の掲載を依頼している。
大会1日目の午前に運営委員会を開催する。
プログラムと一緒に「応用心理士」の書類を同封する予定である。

2. 機関誌編集委員会より(垣本)

当初、機関誌は大会で配布の予定であったが、査読ややりとりなどに時間がかかるため、10月上旬になりそうである。大会受付に、10月上旬発送の掲示をする。

3. 認定「応用心理士」事務局より(大村)

7月14日(金) 18:00~20:00に富士短期大学にて、第2回認定審査会を行った。名誉会員8名(通し番号S1, S2...)と一般会員14名(通し番号1, 2...)全員を認定した。初めての認定のため、以上の認定者には、第62回大会で認定書を授与するが、以降は郵送で発送する。

大会で応募受付の窓口を設置したい。次回は10月上旬に審査会を開催する予定である。事務局の名称は、「認定「応用心理士」事務局」である。

4. 平成7年度公開シンポジウム準備状況について

11月18日(土) 14:00~17:00日本女子大学にて、「マインドコントロールの功罪」のテーマで開催する予定である。教育、臨床活動、ビジネスあるいはマスコミ、宗教の各視点からシンポジストを要請したい。10月初旬の機関誌発送の際に案内を同封したいので、それまでにシンポジストを決定したい。シンポジストは出来るだけ会員がよい

が、1, 2名は会員外でもよいのではないか。

5. 諸学会間連絡会報告(高橋)

6月14日(水)筑波大学学校教育学部で開催され、本連絡会は23学会が加入していること、予算の大部分は「サイコロジスト」の郵送料に充てられているとの会計報告があったこと、「サイコロジスト」33号のテーマの案などが協議されたとの報告があった。

6. その他

シンポジウムのシンポジストに対する謝礼、テープ起こしなどを依頼した場合の費用などについて、若干の質疑があった。

審議事項：

1. 平成7年度予算案について(高橋)

平成6年度の決算報告の後、平成7年度の予算案について、今後多くの申請者が予想される「応用心理士」認定の収入をこの予算に入れること、収入が増えれば機関誌を増刊するなどの提案がなされた。

しかし、第1回の14名の認定者からの申請料などを平成7年度予算に入れるかどうかの質問があり、まだ申請料のみ徴収済みで認定料は未徴収であることから、「応用心理士」関係の会計は、しばらく別会計にした方がよいのではないかと、「応用心理士」関係の収入・支出は、同額を学会予算に計上しておいたらどうかなど、いくつかの意見が出されたに留まった。

2. 新入会員審査

11名の申し込みがあり、全員が承認された。

3. 次回常任運営委員会開催日

11月18日(土)のシンポジウムの後に、会場である日本女子大学で開催されることになった。

4. その他

名誉会員の選出方法について、本委員会で推薦・審議する、事務局で該当する方を名簿でリストアップし、本委員会で審議した後に諾否を問い合わせる、総会で一般会員も審議に加えるべきであるなど、いくつかの意見が出された。

1995年度第4回(1995年11月)

日 時：1995年11月18日(土) 17:30~18:15

場 所：日本女子大学目白キャンパス 泉山館2F
第3会議室

出席者：神作，稲毛，大島，大村，荻野，恩田，垣本，越河，高嶋，長塚，中村，林，齊藤
事務局（莊村，渡辺）

常任運営委員会を始めるに当たって，高嶋，神作両氏より会長交替のご挨拶があった。その中で，高嶋前会長からは大会発表論文集発送の報告と大会総出席者数320名，公開シンポジウム参加者125名，公開講演参加者120名との報告があり，神作新会長からは山本晴雄名誉会員が11月14日ご逝去されたことが報告された。

報告事項：

1. 機関誌編集委員会より（垣本）

機関誌20号が，1,300部刷り上がり，近く会員に発送予定である。

次号に向けて，現在のところ5編届いている。（別紙参照）

2. 認定「応用心理士」事務局より

岡村委員が欠席のため，神作会長が代わりに，名誉会員2名，一般会員22名の申請があり全員承認されたと報告した。

3. その他

事務局より，10月下旬にミニ通信，シンポジウムのお知らせ，名簿用の返信はがきを会員に送付した。

審議事項：

1. 諸学会間連絡会より会費について

諸学会間連絡会において，会費が従来7,000円であったが，10,000円に変更したいとの議題が出ており，12月6日の諸学会間連絡会に学会の返事をするになっている。審議の結果，承諾された。

2. 新入会員審査

12名の申込者について審査の結果，全員承認されたが，この4名は岡村委員の印が必要のため，後日岡村委員に連絡することとなった。

3. その他

- ・12月17日国立教育会館に於いて開催される，日本カウンセリング学会主催の公開シンポジウムの案内が配布された。（林委員）
- ・大村委員より，研究奨励賞の設定について提案された。審議の結果，大村，中村，林の3委員で奨励賞基礎委員会（仮）を作り，次回までに素案を作成することとなった。
- ・大村委員より，この度名誉会員にさせていただ

いたのを機会に，認定審査委員長を辞任したいとの申し出があった。互選制であるため認定審査委員会で検討することとなった。

4. 次回常任運営委員会開催日

平成8年1月19日（金）

1995年度第5回（1996年1月）

日時：1996年1月19日（金）18：15～19：35

場所：日本女子大学目白キャンパス 泉山館2F
第3会議室

出席者：神作，稲毛，大久保，大塚，大村，岡村，荻野，恩田，垣本，越河，高嶋，田中，中村，長谷川，林，齊藤
事務局（高橋，莊村，渡辺）

報告事項：

1. 諸学会間連絡会について（荻野）

12月6日に連絡会が開かれ，会費を7,000円から10,000円に変更することが決議された。

また，「さいころじすと」34号の発行に関して，本学会が編集責任をとることとなり，前回と同じテーマ「大災害と心理学—対策—」で取り組むことが承認された。事務局より各学会に投稿依頼を送付したところ，現在8学会より返信がきている。

2. 認定「応用心理士」事務局より（岡村）

・10月18日の認定審査委員会に於いて，名誉会員2名，一般会員30名について審査の結果，保留1名を除き全員認定された。保留の人には実績を示すものを送るよう問い合わせ中である。今までに名誉会員10名，一般会員43名が認定された。

・次回審査委員会は1月30日を予定している。

・総会以前の名誉会員に関しては，特例で今後も受け付ける。

・前回の常任運営委員会で提案のあった議題「名誉会員になられた方は認定委員をおりてはどうか」について討議した結果，常任運営委員の任期中に名誉会員になられた方は常任運営委員の間は継続してお願いすることとなった。

・認定「応用心理士」の応募方法を機関誌，大会通信に入れたらどうかとの意見が出された。

3. その他

①第62回大会報告及び決算中間報告（別紙参照）
（高嶋前会長）

大会参加者

正 会 員	237名
臨時会員	11名
学生会員	28名
賛助会員	12名
シンポジスト・講演者(非会員)	14名
共立女子学園教職員・学生	約40名
招 待 者	8名
公開シンポジウム・講演一般参加者	約50名
懇親会参加者	86名
研究発表	104件

②機関誌21号に関して、現在 6 編の投稿がある。

③第63回大会の準備状況について（神作会長）

若い人に参加してもらえるように方法を考えた。2月中に第1号通信を、8月上旬にプログラムを送る予定。

シンポジウムのテーマとして、看護、交通などがあがっている。

審議事項：

1. 学会賞運用委員会について

大村委員が作成した学会賞選考規定（案）をもとに検討し、特に選考メンバー、副賞の問題について意見が交わされた。次回までに第2案を作る。（別紙参照）

2. 平成8年度公開シンポジウムについて

高橋事務局長より、理論的・基礎的なテーマとして「親の発達について」が提案された。次回また継続審議する。

3. 新入会員審査

9名の申込者について審査の結果、7名承認され、2名保留となった。保留分は勤務先を確認の上、次回審議する。

4. 次回常任運営委員会開催日

平成8年2月23日（金）

5. その他

なし

1995年度第6回（1996年2月）

日 時：1996年2月23日（金）18：15～20：20

場 所：日本女子大学 目白キャンパス泉山館2F
第3会議室

出席者：神作、大久保、大塚、岡村、恩田、荻野、
垣本、越河、高嶋、中村、長谷川、林、村

井、齊藤

事務局（高橋、久東、渡辺、荘村）

報告事項：

1. 第63回大会準備状況について（神作）

第1号通信は予定より遅れて3月中旬に発送の予定。

2. 機関誌編集委員会より（垣本）

・機関誌21号に関して、原稿は現在10編集まった。査読で落ちるのがあるかもしれないが、もう締切らざるをえないと思う。本日の編集委員会で査読者を決めた。来週依頼するのでよろしくお願いする。

・量は20号より厚めになりそうである。

・この締切り具合なら来年は年2号の可能性もある。出来れば、年に2号発行した方が投稿もふえるかもしれない。締切り直後から一年まっとう原稿もあることを思うと、その方が望ましいとも思う。

3. 認定「応用心理士」事務局より（岡村）

・1月30日の第4回認定審査委員会において審査の結果、申請者7名全員が認定された。

今年度は今回で締切り、一般会計50名、名誉会員10名の計60名が認定されたことになる。前回報告の1名の保留者は、現在も病氣療養中で再度保留である。

・認定「応用心理士」にスタートから関与された駒崎勉先生に特別に差し上げたらどうかという意見が出され、審議の結果、番号は一般会員とも名誉会員とも違う、Hの1番というかたちで出すと決定された。

・決算とまでいかないが、収支の見込みがたってきた。申請料51万円（保留1万円を含む）、認定料150万円、広告料22万円、寄付1万円で計224万円入金。支出は、手引き作成、事務用品、郵送料他で110万円ちょうど、事務局運営費、会議費、交通費他で40万円となり、見込み80万円程度が利益として本部へ出そうである。今後は、年間40～50件の見込みで年間100万円の利益を見込んでいる。

4. その他

事務局からのお知らせ（高橋）

・議事録（第3回～第5回）を本日配布した。

・日本顔学会シンポジウム「顔」の企画協賛の依

頼がきて例年通りひきうけたことが報告され了承された。(回覧)

審議事項：

1. 認定「応用心理士」事務局より (岡村)
 - ・会員でなく心理士を希望して問い合わせてきた上での入会希望者の紹介者欄について。
 - ー今まで通りに、委員会で慎重に審査すれば良いと決定された。
 - ・会議の交通費と食事費ー認定心理士委員会と常任運営委員会委員会の整合性がないことについて。
 - ー整合性はなくてもいいのではないか。それより学会がどういう方向をもって進んでいくつもりなのかという将来像とかねあいも含めた上での提案をほしい。など意見がだされた。
2. 学会賞運用委員会について (中村)
 - 1月30日の認定審査委員会で審議され、大村委員によって作成された「日本応用心理学会学会賞選考規定 (案)」を元に活発に討議され次回継続審議と決定された。
3. 平成8年度公開シンポジウムについて
 - 前回、高橋事務局長より提案されたテーマ「父親の発達について」が決定された。
4. 新入会員審査について
 - 新規申込者6名と前回保留者2名について審議され新規6名は承認、2名については引き続き保留と決定された。
 - また、大卒を最低限にしたかどうかという問題が再度だされ、学会の基本的な考え方をもう少し整理したほうがよいと思うという意見もだされた。
5. 次期開催日
 - 3月22日 (金) 18時～
6. その他
 - なし

1995年度第7回 (1996年3月)

日 時：1996年3月22日 (金) 18：00～20：00
 場 所：日本女子大学 目白キャンパス 第3会議室
 出席者：神作、稲毛、大久保、大島、大塚、恩田、荻野、越河、中村、林、村井
 事務局 (高橋、久東、渡辺、大村)

報告事項：

1. 第63回大会準備状況 (神作大会準備委員長)

1号通信の発送が遅れていたが、昨日ほぼ発送済みである。開催するイベントについて交渉中で、できれば大学の特色を出した企画をお届けしたい。会場は、大学内でできるよう、交渉中である。

2. 機関誌編集委員会より (高橋事務局長が代理)

資料参考

欠席の垣本編集委員長より届いた fax があり、代読された。

越河委員より、名誉会員に投稿依頼することになった。

3. 諸学会間連絡会より (荻野委員)

3月6日に会議があり、各学会の今後のあり方、日本心理学会とその他の心理学会との関係、学会の法人化などが議論され、今後も検討を続けていくとの報告があった。

さらに波及して、本学会の態度や特色、方向性が問われること、国際的対応、会員が何を望んでいるか、会長の任期が1年でよいか、などをいずれきちんと議論しなければならないことが確認された。

連絡会自体のあり方も、単なる連絡組織であるということから各学会のあり方まで議論する場であるといった幅広い捉え方ができ、各個人や各学会で意見統一がない。

日本催眠学会が幹事であったが、任期満了に伴い、日本基礎心理学会に代わったので、そこで引き続き議論することを期待する。

4. 認定「応用心理士」事務局より

欠席の大村委員の案の fax が、回覧された。

5. その他

日本神経回路学会第7回大会、第12回ファジィシステムシンポジウムの協賛依頼に応じると報告された。

審議事項：

1. 学会賞について (中村委員)

先回本委員会で提案されたが、委員長を大村委員、委員を中村委員、林委員で検討している。別紙の規定案を読み上げ、修正・変更・追加部分が検討された。

・年齢制限を設けるか・候補者について、第一次選考はなくし、推薦形式にして被推薦人は学会員全員、推薦人は運営委員及び名誉会員とする、

その後第二次選考にする・“2名連記”を“2名以内”にするか“2名独立”にするか・人ではなく業績に与える・推薦の段階では複数の業績ではなくある業績1点を対象にし、第二次選考で他の業績も問うか・奨励賞も設けてはどうか。設けるとすると若い人がよいが、年齢制限を設けるか、業績を対象とするので一概に年齢で区切れないのではないか・1年のうち、いつ実施するか、大会後機関誌が出てからにするか・1年に1回実施するか・細則の必要性・最初は学会賞1本にするか・賞の決定を投票にするか否か、などが話し合われた。

この賞を設ける目的も含め、さらに検討を進めていく必要がある。

2. 認定「応用心理士」事務運営について

大村委員よりのfaxにより、現状の事務運営は、岡村委員の犠牲の上に成り立っているのでは、アルバイトを雇用するなどして対応したらどうか。会計は、本学会事務局と整合性を取りつつ、認定「応用心理士」事務局で賄う。岡村委員に予算書を提出していただければいかがか。

3. 新入会員審査

先回保留の2名の内、1名が承認された。本学会の性格上、入会基準の判断があいまいになりがちなので、今後委員会を設置するなど検討すべきである。

4. 次回常任運営委員会開催日について

4月19日か26日を予定している。

5. その他

荻野委員より、本学会のあり方を考えるべきとの指摘があり、次回本委員会までに考え、討論すべきである・本学会の方が日本心理学会より歴史があるので中心的な存在になるべきである・雨後の竹の子状態の学会林立を、日本心理学会を中心に合理化したらどうか・複数の学会に入会した場合の会費の割引を検討したらどうか・名簿元帳の作成・歴史的展開に沿った討議をする・会長の任期やあり方・分化が進み、まとまりが悪い、などの意見や検討課題が提出された。

1996年度第1回（1996年4月）

日 時：1996年4月19日（金） 18：15～20：05

場 所：日本女子大学 目白キャンパス泉山館2F

第3会議室

出席者：神作、稲毛、大久保、大島、大塚、恩田、荻野、垣本、高嶋、田中、長塚、中村、長谷川、林、平野、正田、村井、齊藤
事務局（高橋、莊村）

報告事項：

1. 第63回大会準備状況について（神作）

- ・第1号通信を先月発送。すでに返事が戻りつつある。参加申込状況17名、内1名は発表申込者である。
- ・シンポジウムは田中先生を中心に考慮中で、テーマとして、ひとつには地域との結びつきということで、児童虐待防止法、スクールカウンセラーなどを、もうひとつには交通関係を考えている。

2. 機関誌編集委員会より（別紙参照）（垣本）

- ・機関誌21号について、現在10編の原稿を預かっている。内訳は原著希望8編、資料2編。一応ここまでで締切としたい。現在、査読を頼んでいる。
- ・また、7年度のシンポジウム「心のコントロールをめぐる諸問題」の原稿もすでに預かっている。
- ・これらの原稿以外に、ここで、本学会を考えるとということで特別寄稿を募集したい。本学会のこれからの展望、本学会のエイリアとは、などを考えた原稿をお願いしたい。

3. 認定「応用心理士」事務局より（岡村欠席、高橋代理）

- ・4月の認定審査委員会は該当者なしで休会。

4. その他

事務局からのお知らせ（高橋）

- ・1996年度版会員名簿について一現在2校目を校正中。5月10日に出来上がる予定。現在作成中の学術会議申請書類に添付の必要があり、出来上がりを5月初めにあわせた。

審議事項：

1. 学会賞規定案について（別紙参照）（中村）

- ・先回よりしぼられた規定案をもとに、当該年度について、奨励賞の意味を大事にするのか、権威ある学会賞とするのか、推薦方法について、副賞についてなど、活発に論議され、継続審議とされた。

2. 学会史誌作成について（林）

- ・資料が今、どんどん散逸の方向にある。これを防ぐために、1月に提案した当学会史誌をまとめたい。
- ・原案作成の為に委員を決めて、案を本委員会にだしてもらふことと決まる。委員は中村、大村、林（島田）の各氏と決まる。
- 3. 認定「応用心理士」関係平成7年度決算・8年度予算案について
 - ・次回、事務局決算・予算と一緒に審議する。
- 4. 第65回大会主催校・機関について
 - ・9月の大会までには決まっている必要があるもので、そろそろ推薦、立候補を持つ。一応、地方になる年である。
 - ・京都の龍谷大学にきいてみる。（高嶋）
- 5. 運営委員の改選について
 - ・今年度が改選の年にあたる。
- 6. 名誉会員の推薦について
 - ・運営委員と併せて次回までに推薦を持つ。
 - ・名誉会員は、著名でも本学会に対して功労がないと資格がない。また、去年度は、その年の12月までに70才になる方を含めたが、そのまま踏襲してよいか。一了承、そのまま暦年に決定。
- 7. 新入会員審査について

新規申込者10名について審査され、10名全員が承認された。
- 8. 次期開催日について

5月31日（金） 18時～
- 9. その他

なし

1996年度第2回（1996年5月）

日時：1996年5月31日（金）18：10～20：20

場所：日本女子大学目白キャンパス図書館会議室

出席者：神作、稲毛、大久保、大塚、岡村、荻野、垣本、島田、高嶋、田中、中村、長谷川、林、齊藤

事務局（高橋、莊村、渡辺）

報告事項：

1. 第63回大会準備状況について（神作会長）

5月31日現在で発表申込が54件きている。

イベントとしては、公開講演・田中委員企画のシンポジウム・高嶋委員企画のシンポジウムを予定している。田中委員企画のシンポジウムはく地

域援助のカウンセリング>をテーマとして、ゴミ処理・児童虐待防止・スクールカウンセラーの実践等を話し合い、トータルとして未来の応用心理学の展望が見えてくるようにと考えている。

2. 機関誌編集委員会より（垣本）

現在の査読状況は、原著希望8編のうち完成したのは1編のみで、査読が終了していないもの、修正が必要なものがある。資料2編についても検討が必要なものがあり、査読の結果を持って次の段階に進む予定である。

3. 認定「応用心理士」事務局より（岡村）

- ・5月15日に認定審査委員会が開かれ、申請者2名について審査した結果、全員合格した。合格者は昨年と併せて63名となる。

なお、会員への広報活動として手続の方法・認定証の見本などを印刷物にして、6月中頃送付する予定である。

- ・審査委員の交通費・食事代について委員会で検討した結果、交通費は1回につき3,000円、食事代は全額を会より支出することを決定した。また常任運営委員会の食事代も「応用心理士」の収益から支出することを提案したい。

- ・「応用心理士」のニューズレターを発行する計画で、林委員が担当して下さる。B4版4頁とし、大村委員長・神作会長の挨拶、資格取得者の活用についての話などを内容とする予定である。

4. その他

事務局より（高橋）

- ①5月22日、本学会を第17期日本学術会議学術研究団体に登録申請した。
- ②本学会が担当した「さいころじすと」34号が出来上がった。
- ③1996年度会員名簿が刷り上がり、エラーの点検後会員に送付する。

審議事項：

1. 学会賞について

学会賞検討委員会作成の規定案（別紙）をもとに審議し、学会賞と奨励賞の基準の作成、年齢制限の有無、第二条の期間に関する表現、記念品を楯にする案などが提議され、次回までに最終案を作成することとなった。

2. 学会史誌について（中村）

学会史誌準備委員会より学会史誌の刊行につい

ての提案（別紙）があり、刊行の方針に決定した。
頒布方法・頁数・部数等の細部については継続審議する。

3. 平成7年度決算報告について（高橋・岡村）（別紙参照）

認定「応用心理士」関係の決算も報告された。

新たに残高から学会賞積立金・学会史誌積立金の設定が提案された。

次回までに正案を作成する。

4. 平成8年度予算案について（高橋・岡村）（別紙参照）

予備費の活用について検討された。

認定「応用心理士」関係の予算案のなかで、今後「応用心理士」資格取得者の名簿を作成してアピールしたいとの提案があった。

5. 第65回大会主催校・機関について

高嶋委員が龍谷大学に問い合わせた結果、前向きに検討との返事を得ている。

6. 名誉会員の推薦について

次回の常任運営委員会で適当な人を推薦することにした。

7. 運営委員の補充について

まず現運営委員に継続の意向を問い合わせ、不足の時は補充することになる。その場合、女性・若手を率先して推薦しようとの提案があった。

一方、70歳を過ぎたら運営委員を辞退して頂いたらとの意見が出たので、次回審議となった。

8. 新入会員審査

28名の申請があり、審査の結果全員が承認された。

9. 次回常任運営委員会開催日

平成8年7月12日（金）

10. その他

なし

1996年度第3回（1996年7月）

日時：1996年7月12日（金） 18：15～20：30

場所：日本女子大学 目白キャンパス 第3会議室

出席者：神作、稲毛、大久保、大島、大塚、岡村、恩田、荻野、垣本、越河、高嶋、中村、林、村井、齊藤

事務局（高橋、久東、渡辺、庄村）

報告事項：

1. 第63回大会準備状況について（神作大会準備委員長）

連名者を含め、約160名の参加を予定している。

第1日目の公開講座は、「中京大学公開高座」の名目で「日本応用心理学会」協賛という形態で実施することを承認いただきたい。「鉄道車両の設計とデザイン」のテーマで行うことを検討中である。

第2日目の講演は、河合 悟先生（中京大学）に「応用心理学の大切なもう一つの分野」のテーマで依頼している。

2. 機関誌編集委員会より（垣本委員）

投稿論文は、10編で、内4編は完成している。残りのもので、査読の返事が返ってきていないものが数編ある。

8月末に原稿をそろえ印刷を依頼する予定である。発行については、大会で配布するのは無理なようであるので、昨年度と同様、10月上旬頃になる。

7月中に一度、編集会議を開催したいと考える。

今後、予算的に可能であれば年2回の発行を次期編集委員会（10月以降）で検討していただきたい。

機関誌に認定「応用心理士」の名簿を掲載してほしいとの要望があった。8月末までに名簿が準備されれば、掲載可能である。

3. 認定「応用心理士」事務局より（岡本委員）

現在、3名の申請がある。

また、申請のお知らせを会員に送付したところ、12名から申請用紙送付の依頼があった。

現在申請が出されている分については、委員会で承認いただき、9月の総会で報告したい。

反応がまだ少ないので、今後、学会誌に名簿を乗せるなどのPRをし、本委員会でもまだ申請をしていないメンバーが率先して申請してほしい。

4. その他

①事務局移転について

高橋事務局長より、来年（1997年）3月をもって、日本女子大学から、本委員会の林委員、荻野委員の所属する白梅女子短期大学に事務局を移転する旨、報告された。荻野委員より、お引き受けするが、大学の所在地が不便なため、本委員会の会場として日本大学、駒澤大学などに協力願いたいとの申し出があった。

②今年度公開シンポジウムについて

「父親の発達」(仮題)を予定している。日時は1997年1月25日(土)14:00~16:30で、会場は日本大学、現在、演者として柏木先生のみ決定している。司会是高嶋委員にお願いしたい。特に、キャリアの発達、親としての発達に焦点を当ててはどうかと考えている。

③高橋事務局長より、国際応用言語学会世界大会(1996/8/2-6)の協賛を引き受けた旨報告された。

審議事項:

1. 学会賞について(林委員)

規定案(別紙資料)を読み上げた上、変更点が確認された。

- ・学会賞2名、奨励賞2名でもよいか・受賞の対象に関する規定(第三条)の各項目に、実践的活動、基礎研究、学会発表なども含めてはどうか・学会賞は名誉的なもの、奨励賞は将来に期待し年齢的に若いものを対象にするとの区別があるが、特に年齢制限は設けない・最初から規則で縛るのではなく、本委員会と選考委員会(4名)でよく協議しながら、2~3年ぐらいの見通しで細則などを決定すればよい・学会賞と奨励賞の規定を別にする・メディアに乗った他薦のような場合、記録など形に残ったものを対象にする・選考委員の任期は2年とし、学会賞、奨励賞を兼ね、留任を妨げない。その旨規定に記載する・細則は最初は両賞とも一本化するが、将来は分ける・スケジュールとして、本委員会では規定を決定するまで(次委員会まで)で、その後は選考委員会に引き継ぎ、次年度(1997年度)大会から実施する方向でいかかが・大会でアナウンス、審議し、機関誌掲載を事務局で処理する、などが話し合われた。

2. 学会史刊行について(越河委員)

学会史刊行案(別紙資料)が読み上げられた。11月に編集委員会が開かれ、刊行は1998年度の予定である。

- ・作業に慣れた方々、本学会の歴史に詳しい方々が携わった方がよいのではないか・金子書房などの出版社に委託してはどうか・刊行のための予算は、来年度以降は各年80万円計上する予定であるが、非売品にしてはどうか・刊行形態は、

単行本にするか機関誌の別冊にするかなどが考えられるが、機関誌別冊にした方がよいのではないか、などの意見が出されたが、次回の本委員会で引き続き討議する。

3. 平成7年度決算・8年度予算案について

8年度予算案について・学会史編纂の計画があり、基金枠を設けたらどうか・学会史刊行に関しては、英文誌刊行に対する経常の学会誌補助金、個人対象の出版補助金などの公の助成が受けられるのではないかと検討の余地があるが、いずれも会計報告の方法をきちんとすべきである・予算は現状の案で認め、決算で補正してはどうか・機関誌関連の費用を多くし、予備費から500,000円移行すべきである・事務局移転費用は費目を立てず、後ほど修正する、などが話し合われた。

4. 第65回大会主催校・機関について(高嶋委員)

第64回(1997年度)は駒澤大学に決定しているが、第65回大会(1998年度)は京都・龍谷大学に依頼してはどうかについて審議され、承認された。

5. 運営委員の補充について(高橋事務局長)

57名中、49名については次期運営委員留任の承諾を得ている。4名は70歳以上で、補充は4名前後になる。4名候補が挙がった。

富士短期大学 浮谷秀一氏(岡村委員推薦)

科学警察研究所 足立浩平氏(大塚委員推薦)

科学警察研究所 高沢則美氏(大塚委員推薦)

駒澤大学 谷内泰富氏(中村委員推薦)

大島委員より、看護関係で教職にある方が入られてはどうかという意見があった。

事務局で他の候補者も当たり、次回以降の本委員会で決定する。

学会にも全く参加せず、会費も長期滞納したまま引き受けている2名については会費を督促する。

会計監査は運営委員には入れない。現在会計監査の馬場房子氏(亜細亜大学)が常任運営委員に推薦されたため、会計監査を1名交代する。大久保委員推薦の玉井寛氏が承認された。

6. 名誉会員の推薦について

該当者はないようであるが、事務局で責任を持って名簿などで探してはどうかということで承認された。

7. 新入会員審査

12名全員が審査の上、新入会員として承認された。

8. 次期開催日について

11月頃を予定したいが、大会の時に高橋事務局
長、中村委員で決定する。

9. その他

大会プログラムは8月上旬に刷り上がって発送
される予定である。(神作大会準備委員長より)

会員異動

新入会員(1995.4月～1996.3月)

(氏名, ①現住所, ②所属)

持永 豊孝

②

布施 淳子

②山形大学医学部看護学科 助手

佐野 道

②日本大学大学院 在学

今留 忍

②日本医科大学看護専門学校 教務主任

岡村 美奈

②早稲田大学学生相談センター 専門相談員

山口 康弘

②秋田県警察本部刑事部鑑識課 研究員

木場 富喜

②鹿児島純心女子大学看護学部 教授

東海林靖子

②上海市華東師範大学 研究生

曾根原純子

②信州大学医療技術短期大学部看護学科 助手

仁平 義明

②東北大学文学部心理学科 教授

黒田 緑

②北里大学看護学科 助手

井上 美香

②中京大学大学院 研究生

草薙 和美

②東邦大学医学部心理学研究室 非常勤研究員

大森 智美

②山梨県立看護短期大学 助手

沖 寿子

②佐賀医科大学医学部看護学科 助教授

吉田 秀子

②心理書簡法研究会

鉄村 和恵

②関西学院大学大学院教育心理学教室 在学

都築 道子

②北星学園大学 研究生

菊池 清勝

②立正大学 教授

北川 公路

②駒沢大学大学院人文科学研究科心理学専攻

博士後期課程 在学

玉内 裕美

②北里大学看護学部 専任講師

岩淵 桂子

②横浜市旭保健所 医療ソーシャルワーカー

小滝 慶一

②航空自衛隊航空安全管理隊 防衛庁技官

桑田 繁

②作陽音楽大学 専任講師

和田美和子

②城西大学女子短期大学部 助手
森 ひとみ

②駒沢大学大学院人文科学研究科
修士課程 在学
五井 朱実

②日本大学大学院文学研究科心理学専攻
博士前期課程 在学
野瀬 出

②日本大学大学院文学研究科心理学専攻
博士前期課程 在学
小野 和美

②川崎医療福祉大学医療福祉学部
保健看護学科 助手
坂崎 タ

②駒沢大学人文科学研究科心理学専攻
修士課程 在学
藤田 悟郎

②警察庁科学警察研究所 研究員
秋山真奈美

②日本大学大学院文学研究科心理学専攻
博士前期課程 在学
市川 和子

②警視庁科学警察研究所 研究員
服部 綾子

②日本大学大学院文学研究科心理学専攻 在学
吉村佐紀恵

②財元興寺文化財研究所 研究員
桜井 三与

②~~㈱~~東京サニー
定金 浩一

②兵庫教育大学学校教育 大学院生
宮本 佳明

②三菱総合研究所 福岡県派遣研修生
中田 法子

②若葉台地区センター 講師
梶原 隆之

②平和学院衛生福祉専門学校
辻谷 實

②
菊地 徳省

②ホノルル大学オリエント校 教授
石井 康弘

②倉敷翠松高等学校 教諭
上原シゲ子

②ホノルル大学オリエント校 講師
飯田 穎男

②
大間々 砂智子

②共立女子大学学生相談室 職員
田中 道弘

②常磐大学大学院人間科学研究科修士課程 在学
福原 浩二

②エルヴェ学院厚木校 講師
伊藤 一郎

②熊本家庭裁判所 家庭調査官
鉤 治雄

②創価大学教育学部 助教授
兼久 満

②糸満晴明病院 心理士
保坂榮之介

②㈱創工 代表取締役
土谷 望

②パンネーションズ・コンサルティング(株)
非常勤講師
名張 淑子

②㈱マナクリエイト伊勢分室 ディレクター
堀 洋元

②日本大学大学院文学研究科博士前期課程 在学
清水 実重

②北海道大学医療技術短期大学部看護学科 助手
福井 博一

②早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程 在学
岡村 芳郎

②日本電子専門学校 講師
遠藤美千代

②ホノルル大学オリエント
新潟応用心理学教室 講師
戸沼 文子

②ホノルル大学オリエント
応用心理学北海道教室 室長

退会者（前号掲載以降）
安藤 公一，橋本 治，蛭川 栄，塹江 清志，

井田 博子，飯野 容子，梶原 豊，川中なほ子，
木津川家久，幸田るみ子，丸山 康則，三好 隆史，
永田 勝彦，難波精一郎，仁ノ平幹夫，仁科 義数，
新田 茂，篠原 英壽，竹内 芳夫，豊口隆太郎，
渡辺 篤朗，山根はるみ

逝 去（前号掲載以降）

謹んでご冥福をお祈り致します
遠藤 辰雄，金平 文二，重永 幸男，鈴木 信，
鈴木 正弥，太城 藤吉，山本 晴雄

寄贈文献

学会事務局に以下の雑誌類・著書（平成8年7月
まで）が寄贈されていますのでご利用下さい。

一定期刊行物一

母子保健情報（恩賜財団母子愛育会）1995 第32号，
第33号
CODER NEWS LETTER（発達科学教育センター）
1995 Vol. 35
電気通信普及財団研究調査報告書（電気通信普及財
団）1996 No. 10
学術情報センター紀要（学術情報センター）1995 第
7号，1996 第8号
学生相談室紀要（慶應義塾大学学生総合センター学
生相談室）1995 第25号
ファジィ システム シンポジウム 講演論文集 1996
第12回
発達障害研究所年報（愛知県心身障害者コロニー発
達障害研究所）1994 第23号
放送研究と調査（NHK放送文化研究所）1995 8，9，
10，11，12，1996 1，2，3，4，5，6，7
International Association of Traffic and Safety
Sciences（国際交通安全学会）1995 Vol. 21 Nos. 1，
2，3，1996 Vol. 22 No. 1
児童教育研究（安田女子大学児童教育学会）1996 第
5号
人事試験研究（日本人事試験研究センター）1995 Nos.
156，157，1996 Nos. 158，159
上智大学心理学年報（上智大学心理学科）1996 第20
巻
科学警察研究所報告一防犯少年編一（科学警察研究
所）1995 第36巻，1号，2号

科学警察研究所報告—交通編—(科学警察研究所)
 1995 第 36 卷, 2 号, 1995 第 37 卷 1 号
 関係学研究(関係学研究編集委員会) 1995 第 23 卷,
 1 号
 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要(慶應義塾大
 学大学院社会学研究科) 1995 第 41 号, 第 42 号
 研究紀要(鹿児島女子大学) 1995 第 17 卷 第 1 号,
 1996 第 17 卷 第 2 号
 研究紀要(国立身体障害者リハビリテーションセン
 ター) 1994 第 15 号, 1995 第 16 号
 健康心理学研究(日本健康心理学会) 1994 Vol. 7 No. 2,
 1995 Vol. 8 Nos. 1, 2
 化粧文化(ポーラ文化研究所) 1995 No. 33
 基礎心理学研究(日本基礎心理学会) 1995 第 14 卷
 第 1 号, 1996 第 14 卷 第 2 号
 こども家庭福祉情報(恩賜財団母子愛育会日本総合
 愛育研究所) 1995 Vol. 10, 1996 Vol. 11
 明星大学心理年報(明星大学心理学研究室) 1996 第
 14 号
 名古屋大学教育学部紀要・教育学科(名古屋大学教
 育学部) 1995 第 42 卷 第 2 号
 名古屋大学教育学部紀要・教育心理学科(名古屋大
 学教育学部) 1995 第 42 卷
 日本語国際センター紀要(国際交流基金日本語国際
 センター) 1996 第 6 号
 日本総合愛育研究所紀要 1995 第 32 集
 人間関係学研究(日本人間関係学会) 1995 第 2 卷
 第 1 号
 応用社会学研究(東京国際大学大学院社会学研究科)
 1995 第 5 号
 産業安全研究所安全資料(労働省産業安全研究所)
 1996 No. 13
 産業安全研究所研究報告(労働省産業安全研究所)
 1995
 産業安全研究所年報(労働省産業安全研究所) 1994

1995
 産業安全研究所特別研究報告(労働省産業安全研究
 所) 1995 No. 14
 指導と評価(日本教育評価研究会) 1995 Vol. 41 Nos.
 8, 9, 10, 11, 12 1996 Vol. 42 Nos. 1, 2, 3,
 4, 5, 6, 7, 8
 システム科学研究所紀要(早稲田大学システム科学
 研究所) 1996 No. 27
 スポーツ心理学研究(日本スポーツ心理学会) 1996
 第 22 卷 第 1 号
 テレビ・ラジオ番組個人視聴率調査・全国結果票(NHK
 世論調査部) 1995 6 月 11 月, 1996 6 月
 テレコム社会科学賞入賞論文賞(電気通信普及財団)
 1996 No. 5
 東海大学紀要(東海大学教育研究所) 1995 第 3 号
 東京学芸大学紀要(東京学芸大学紀要出版委員会)
 1996 第 46 集(平成 6 年度) 総索引 1996 第 47 集
 第 1 部門教育科学
 早稲田心理学年報(早稲田大学文学部心理学会) 1996
 Vol. 28 Nos. 1, 2
 山梨大学教育学部研究報告(山梨大学人文社会科学
 系) 1994 第 45 号, 1995 第 46 号
 ヤクルト国際シンポジウム「脳とコミュニケーション」(株式会社ヤクルト本社) 1994 第 8 回
 全心協ニュース(全国保健医療・福祉心理職能協会)
 1993 Nos. 1, 2 1994 Nos. 6, 7, 8 1995 Nos. 9,
 10, 11, 12 1996 Nos. 13, 14, 15

—図書—

消費「新潮流」のつかみ方 油谷遵(産能大学出版
 部) 1995
 TWO NEW NATURAL LAW ON HUMAN
 BEHAVIOR AND EMOTION AL FEELING
 (SERGE BOZHICH) 1995